

令和6年2月 市長定例記者会見

2024年2月14日(水)

午後1時30分 開始

【秘書広報課主幹】 ただいまから定例記者会見を開始いたします。

初めに市長よりご挨拶を申し上げます。

【市長】 本日、3月議会の招集を告示させていただいております。来週水曜日、2月21日から開会します。新しい総合計画の開始年度となる令和6年度の当初予算案や関係条例案を提出させていただきました。しっかりと議会の中でも説明をさせていただきたいと思っています。

それから、北陸新幹線敦賀開業日まで、いよいよあと31日となりました。市民の皆さんとオール敦賀体制で盛り上げていきたいと思っておりますし、本当にたくさんのイベントを市民の皆さん中心に企画していただいているということで、当日が楽しみだなと思っています。

私からは以上です。

【秘書広報課主幹】 では続きまして、事業発表に移ります。

令和6年度当初予算案及び令和5年度3月補正予算案の概要について、お願いいたします。

【市長】 それでは、新しい総合計画の開始年度に当たる令和6年度の当初予算について説明をさせていただきます。

この令和6年度の当初予算では、各政策を組み合わせる「好循環モデル」を基に、各テーマに沿って、今回総合計画でもそうなんですけれども、大本にあるのがやはり人口減少対策、これが大事だろうということです。どの政策も、それに関連づけて考えていったほうがいいのではないかと考えていまして、人口減少対策という大きな政策課題に対応するための予算組み、予算の計上となっております。

あわせて、このタイミングですので新幹線敦賀開業、この効果を最大化、そして長く続くように考えた予算と思っております。

予算編成に当たりましては、事業目的に応じまして、ふるさと応援基金等からの繰入れを行うとともに、国の第1次補正予算に合わせて事業の一部を令和5年度の補正予算に前倒しをするということをやっております、事業の着実な推進を図っております。

その結果、数字については、新年度の予算規模は、前年度の肉づけ後となる令和5年の

6月補正予算と比べまして、一般会計は2.0%の減、それから全会計では0.7%の減となっております。

当初予算の主な事業といたしましては、お手元に配付した資料のとおりですが、予算編成の重点施策ごとに主な事業等を申し上げます。

初めに、「子育て・教育」の分野です。

結婚支援事業については、引き続き一人でも多くの結婚を希望する方を支援することができるよう、民間マッチングアプリの活用など、さらなる拡充に取り組みます。

それから、老朽化した粟野保育園及び櫛林保育園に代わりまして、新たに設置する予定の幼保連携型認定こども園の建設候補地に関して測量及び不動産鑑定を実施いたします。

それから、次世代を担う地域に根ざしたデジタル人材の育成に向けて、デジタル教育の導入支援及びデジタルによる地域課題解決等に取り組むプログラムを実施していきます。

それから、学校給食あり方検討会の答申に基づきまして給食単価の値上げを実施いたしますが、子育て家庭に対する支援として、家計の負担が増加しないよう値上がり分を支援いたします。

次に、「定住・移住」です。

就学期、就労期、進学するとき、それから就職するとき大きく人口が減少する。それから、一回市外に出ていた後のUターン率が低調であるという現状を踏まえまして、奨学育英資金貸付金に加えまして、新たに民間部門と連携した支援制度を設けて、敦賀に帰って働く誰もが支援を受けることができるホームタウン奨学金制度を創設します。

次に、「地域経済」です。

市内小中学生及び保護者に対する市内企業への理解促進や、業務内容への興味喚起を図るため、キッズニア監修の下、プログラムを開発しまして、企業が指導しながら子供たちが仕事の体験を行うイベントを開催いたします。

分野分けしているんですけども、これは地域経済とも言えますし、定住・移住というところでも言えるかと思います。総合計画でも示すんですけども、それをぐるぐる回していくということが頭の中に入っています。今回の総合計画や予算組みの中で考えていますので、これもそういうところで移住・定住から地域経済に結びつけるような流れの中で考えている予算ということになります。

それから、次世代を担う農業者の育成、確保が重要な課題と考えておりますので、市独自の施策として、新規就農者の技術取得や機械導入を支援していくことをやります。

それから、これも昨年から議論には上がってきていますが、金ヶ崎の周辺整備についてです。これにつきましては、日本貨物鉄道株式会社用地の土地購入を進めるとともに、公園、それから駐車場等の公共部門の整備について設計等を行います。

次に、「安心と暮らしやすさ」です。

余暇の充実、健康増進等に向けた都市型のスポーツを体感できるアーバンスポーツ施設整備につきまして、先進地等の事例も踏まえ、基本方針を検討していきたいと思っています。

それから、介護人材の確保に向けまして、既存の制度に加えまして、新たに介護福祉士や介護支援専門員等の資格取得者に対する奨励金や、外国人介護職員への就労助成制度等を創設し、介護人材の安定的な確保及び定着促進を図ります。

その次が、原子力災害が発生した場合に避難情報などを迅速、確実に伝達する防災行政無線の、老朽化が進んでいるということで、これの更新に係る経費の債務負担行為を計上いたします。

以上、主な事業の取上げということで説明させていただきましたが、令和6年度当初予算の概要でございます。

続きまして、令和5年度3月補正予算について申し上げます。

3月補正予算につきましては、事業の完了や財源の確定に伴うもののほか、早期に予算措置を必要とするものについて計上いたしました。

先ほど冒頭でも申し上げましたけれども、国の補正予算を活用しまして、小中学校及び総合運動公園プールの改修を前倒して実施する予算や、あと甲子園、第96回選抜高等学校野球大会に出場する敦賀気比高等学校への激励費を計上しております。

その他の予算といたしましては、職員の早期退職に伴う退職手当、それから福井県が実施する敦賀駅東線などの道路整備事業や敦賀西部地区土地改良事業の負担金を計上しております。

以上が3月議会に提案いたします令和6年度の当初予算及び令和5年度3月補正予算の概要でございます。

私からは以上です。

【秘書広報課主幹】 それでは、ただいま発表いたしました項目について質問をお受けいたします。

最初に、幹事社さんからお願いいたします。

【記者】 予算に関して、毎回の質問で恐縮なんですけれども、特に今回意を配したというか、市長肝煎りの政策がもしあれば、どの政策が肝煎りなのかというのを教えていただきたいのと、ご説明の中で好循環モデルということで、先ほど一部、定住・移住から地域経済につなげるみたいなお話がありました。もう少し具体的な説明があればお聞かせください。

よろしく申し上げます。

【市長】 総合計画で、こういうような枠組みでこれから敦賀の事業をいろいろ進めていきます。今回、それに基づいて予算をつくっていますという概念図みたいなのを我々は持ちながらやろうとしているんですけれども、まずその考え方でやっていくということ自体が一つの今回の大きい鍵というか大事なことだと考えています。予算組みに関しては、この事業、この事業、この事業というのではなくて、そういう考え方でやっているというのは、私、今回すごく大事なことだと思っています。

その枠の中でやっている事業の中で、一つが、「子育て・教育」から「定住・移住」に結びつけて「地域経済」を回していくということです。これを回す中で「安心と暮らしやすさ」を実現していくという枠組みにうまく乗っかっている今回の分かりやすい例は、ホームタウン奨学金です。これは、もちろん教育支援ということもあるし、あと敦賀に戻ってきてほしい、戻ってきてくれる人を応援していきましょうという意味合いを持たせています。

それから、デジタル人材育成事業。これも小中、高も入れています。こうやってデジタル人材を育成していこうというものです。その先に何があるかというと、やはりこの分野はリモートで仕事ができるということがあって、敦賀に住みながら、東京と同じぐらい、大阪と同じぐらい稼げるような分野でもあるので、そういう人材を育てていき、外に出て勉強してもらったり仕事してもらったりしてもいいんですけれども、いずれ敦賀に戻ってきやすくなるようなことを教育段階から考えていこうというような予算の組立てになっています。

ほかにも住みやすさということであると、敦賀に定住とかそういうことも考えていうと、アーバンスポーツの整備事業というのもあったかと思うんですけれども、これもただ単にこの設備を整備してということだけではなくて、やはりやる人は若い人が多いというのがありますので、敦賀で住んでいたら、こういう施設があって楽しく住めるよというような環境整備もやっていくというようなことも考えながら、単に本当の施設整備というだけで

はなくて、そういうことをずっと循環するような形で考えているというのが今回の特徴だし、今紹介した事業は、それを代表するような事業になってくると思っています。

【記者】 もう1点なんですけれども、金ヶ崎の周辺整備の話で、昨日の事前レクの中でも、たしか令和8年度までに50億円の多分見込みで予算が、今後も含めてですけれども、見込みということでお話しいただいたんですけれども、もちろん民間がやる部分もあると思うんですけれども、現時点でどのような計画で、どのような見通しで進んでいるのか、改めて市長のほうからお聞かせください。よろしくお願いします。

【市長】 今、計画、それを造るんですよというところで設計等をやっていくということで、そこの中である程度の予算というのが見えてくるんだらうなと思っているんです。全体の事業費としてですけれども。

今回、公共部分としては、これも前から説明させてもらっているかと思うんですが、ここが民間の部分だとすると、道を隔てたこちら側や、あとこちら側のほう、こちら辺が公共が整備する部分かなと思います（画面を使って説明）。今のところはざっくりとそういう分け方で考えていますので、今回の公園及び駐車場等の公共部分の整備に向けての設計というのは、エリアとしてはそこら辺が対象になってくるかと思っています。

それとは別に、こちらの民間のほうというのはこれから、今、民間が事業性も含めて検討しているというところですので、それに合わせて外側のほう、公共部分もできたら統一感を持たせながらやっていくということもありますから、そこいろいろな話をしながらやっていくんだらうなと思っています。

この設計等とかが出てくれば、事業費というのでも大分確度の高いものになってくるのかなと思っていますので、今回この予算で、土地購入ももちろんここには含まれていますけれども、この設計もやっていくというような形で考えています。

【記者】 ありがとうございます。

【秘書広報課主幹】 では次に、幹事社さん、よろしいですか。

【記者】 率直に、初めての当初予算編成になったと思うんですけれども、感想というか自分の色が出せたかなみたいなものも含めて、思いをお聞かせください。

【市長】 正直言うと、半分出せて半分出せてなかったかなと思っています。

半分出せたかなというのは、このように考えていこうねという考え方はずっと折に触れて申し上げていましたので、市役所の中で職員の皆さんがいろんな事業を当初予算に向けて上げてくる中で、さっきから言っている好循環モデルにのっかって説明をしてくれる職

員さんがまあまあいらっしやったので、それは分かってきているなというか、すごくやりやすかった部分があり、そこら辺は色が出てきたかなということがありました。

出せてない部分は何かといいますと、そもそもの当初予算に向けてのプロセスがもう少し自分なりに工夫しなければいけないのかなと思っているところがあって、夏頃から準備をして、職員とこういうふうに来年度の予算をやっていくんだよねというコンセプトづくりから始まってということとを本当はもう少し綿密にやったほうがよかったのかなと思っています。

ただ、いざこうやって出来上がったのを見ると、さっき私、半分半分と言いましたけれども、まあまあ色を出せているなと思っています。後づけではなくて、割と思っているモデルみたいなものにのっかっているなというのを思いますね。

あともう一つ、今回の予算編成で、せっかくなので気づいたというか、割と職員さんが自分の頭で考えて、ほかでやってないこととかいうのを提案してくる幾つか事業がありました。話をどんどん詰めていくと少し気になるところがあって今回やらなかったのもあるんですけども、そういうトライアルというか、少しチャレンジ的なことを提案してくれてのは、すごくプロセスとしてはうれしかったです。結局やらなかったのはあるんですけども、考えてもらった職員さんには申し訳なかったんですけども、あれは少しうれしかったですね。

【秘書広報課主幹】 では次に、各社の方からお願いいたします。

【記者】 幹事社さんの質問にも関連しているんですけども、金ケ崎の件で、この事業は民間の整備する部分があってこそこの事業なのではないかと見ているんですけども、まず市として先にこういうふう用地の取得だとか設計で予算化されて、民間との調整見通しについて市長としてどのように考えていらっしやるのか。もう民間も着手するよというような手応えを感じていらっしやるのかどうかをお聞かせください。

【市長】 まず、民間があってこそこの今お話があったんですが、金ケ崎の構想は実は歴史が結構古くて、平成24年に一番初めに金ケ崎周辺整備構想というのがありました。それから、平成30年にも金ケ崎周辺施設整備基本計画がありました。ステップでいうと1段階、2段階、3段階目みたいな形なんですけれども、実は1段階目と2段階目では、ここがないんですよ（画面を使って説明）。民間施設というのは緑地のままなんですよね。この周辺を公園的に整備するという計画です。

平成24年では、港のほうも倉庫群をもう少し何か商業施設にできないかとかいうのも

入っているんですけども、もともとJR貨物の跡地とか、それから線路とかの廃線もあるので、そういうのを利用して公園みたいにしてできないかなというのはずっとありました。

ということでいうと、今回この予算を取って、まだ民間で事業判断をしてない中でこの予算を取ってやっているわけなんですけど、ここというのは、もともとの今までの構想の中でも整備していきたいねという話があった場所なんですね。

今、ここで設計等をやりますけれども、ある意味そこに乗っかるような感じで、今までの流れに乗っかるような感じでこの公共部分についてもやっていくということで、中が絶対ありきかという、そうでもないんだろうなと思っています。

その次に、民間部分との兼ね合いはどうなるのかということで、さっきも言いましたけれども、なるべく民間と同じような一体としてのコンセプトをつくっていききたいなという話があり、民間のほうも事業判断というのはいずれやられると思うんですが、民間の中では、はっきりとしたスケジュールというのはまだ言えるような段階でもないと思いますので、またそこら辺でスケジュール感が出てきましたら皆さんにはお知らせしたいなと思っています。

【記者】 分かりました。ありがとうございます。

【記者】 2点お聞きしたくて、まず1点目だけまずお聞きしたいんですが、当初予算の概要の中で、概要でいうと8ページになるんですが、アウトオブキッザニア開催事業費というのがすごい特徴的というか、あまり聞いたことのない事業だったもので、これについての何でこれをやろうと思ったかとかいうか。

あと、もしかして県内では初めてなのか、あまり聞いたことないんですけども、その辺りもし分かれば、思いと一緒に聞かせただければと思います。

【市長】 もともとのきっかけは何かというと、私の思いとしても、敦賀にはたくさんいい企業さんがあるなというのをいろんな企業さんと話して思っていたんですね。一方で、何か話していると敦賀は働く場所がないみたいなことを言われるんですけども、いや、そんなことないぞというのを思っていて、敦賀の会社さんがこんな会社があるんだよというのを子供にも知ってほしかったし、もっと言うと保護者の方にも知ってほしいなという思いがありました。

その中で、敦賀市、ものづくり産業懇話会というのを敦賀の主に製造業のところが多いんですが、あと金融機関とかも入っていただいていますけれども、そういうところのメン

バーが集まっていたいて、私も参加して、敦賀市でいうと産業経済部がマネジメントする形で会議をやっているんですね。そこで会社さんから話を聞くのは、やはり会社のことを知ってほしいと言われていたんです。私、さっき自分の思いとしても知ってほしいという話をしたんですが、イメージとしては、私は中学生か高校生かなと思っていたんです。就職を考え始める年として。そうしたら企業さんは小学生にも知ってほしいと言われるんですよ。

そうしたら、いざ予算を考えるとなったときに、さっき職員さんがいろんな面白い事業とかトライするような事業を考えてきてくれましたという話をしたと思うんですが、これはその一つで、こんなのありますよと。キッズニアさんが、自分らのところだけではなく出張するような形で、しかも企業さんに、どのようなプログラムを組むと子供に喜ばれるか。要はキッズニアは物すごく人気がありますけれども、そのノウハウを敦賀の企業さんにも移植して、敦賀の企業さんは自分たちの会社に合わせてキッズニアのノウハウを導入して子供たちに楽しんでもらうようなことができる、という職員からの提案があって、これはぜひやろうということで今回やらせていただきました。

全国的に見ると10個あるかないかぐらいだったと思うんですけども、やっているところがあるんです。キッズニアさんと一緒に。県内では初めてだということです。

【記者】 もう少し広く、当初予算概要の中でも重点政策を4つ挙げていただいていたと思うんですが、改めてこの4つのテーマにした狙いというか意図をお聞かせいただければと思います。

【市長】 敦賀市民にとって、敦賀市に住んでいてよかったと思えるような行政をやっていかなくちゃいけないと考えたときに、考え方の整理としてどのようにしてやっていったらいいのかをずっと思っていて、今回、総合計画にもその考え方を出すんですけども、そのときに好循環モデルという言い方をしている。モデル的に考えているのがこの4つの項目を連携させて循環させていくということを考えている。

今日、その図を持ってくればよかったんですけども、どういう図になっているかというと、さっき申し上げたとおり「子育て・教育」をやって行って、ここの環境を整えること。そして、それが「定住・移住」に結びつくような政策、先ほどのホームタウン奨学金とかも含めてですけどもそういうのをやっていく。そこで、要は敦賀に住む人が確保できて、その人たちが「地域経済」を回していく。

「地域経済」側からいうと、さっき申し上げたように会社側の話だったりとか、これも

都会ではできない産業として1次産業の話であったりとか、そういうことをちゃんとサポートしていきましょうと。それを回していく中で、「安心と暮らしやすさ」を実現していき、それがまた子育て環境であったり、敦賀に住みたいというような話につながっていくのをモデル的に図として持っています。この基本的な考え方に基づいてやっていくということをしていますと。

総合計画というのは、これから私たちがどのように考えて事業を進めていきますということそのものなんですけれども、それと予算を連動させて考えていますという、そういうつながりになっているということです。

【記者】 まず1点、敦賀港の推進事業の話なんですけれども、こちらは恐らく県のお金も出ている、県と市で折半してやられるものと思うんですけれども、改めてこちらの事業について、敦賀港利用促進という面で市長の一言をいただけたらと思っております。

【市長】 敦賀港貨物集荷推進事業費ということになるかと思うんですけれども、今おっしゃっていただいたように県、市で2分の1ずつという事業費になります。

これは、2024年問題というのを聞かれたことがあるかと思うんですけれども、法律が変わって、例えばトラックの長距離の輸送で、今までよりもある意味働き方環境が一人一人にとってはよくなる。逆に、コストもこれからかかってくるんだろということになってくるような状況や、カーボンニュートラルの話もありということで、そういうことを踏まえて、少人数で大量に物を運ぶことができる船を使っていくことがこれから大事になってくるのではないかとされています。それをモーダルシフトという言い方をしていたんだと思うんですけれども、その2024問題と言われた2024年がいよいよやってきましたということです。

このタイミングで、ぜひともモーダルシフトということをこれから運送業者さんが考えるのであれば、敦賀港をその拠点として使っていただきたいという港湾管理者の県、それから地元の敦賀市の思いということがこの事業費です。

実際、船会社や企業訪問で回らせてもらうんですが、その中で言われるのが、2024年問題というのはずっと言われてきたということです。いざ2024年になったときに、今まだどうなるかというのは結構不透明だということが言われます。一瞬にしてそっち側の規制がかかってしまうのか、それともゆるゆると行くのかと。

我々は、港を持っている身として、モーダルシフト、ずっと時間をかけてそうなるのかもしれませんけれども、それは促進していきたいと思っていますし、そういう流れになる

のであれば、いち早く敦賀港を使っていただきたいという思いがありますので、今回この事業費を持っているということです。

【記者】 地の利とかも併せて、敦賀港の強みのようなところというのはどういうところにあると思われていますでしょうか。

【市長】 敦賀港については、ポートセールスのときなど、毎回同じようなことを申し上げているんですけども、一つは天然の良港であるということです。それからもう一つが地の利がいいということです。例えばRORO船でいうと、北海道と本州を結び、そこからまた九州に結ばれているという港は日本海側では敦賀港だけ。そして、関西・中京方面へのアクセスもいいということがあって、本当に地の利がいいということがあり、かつ、これからの心配事としては南海トラフの太平洋側の地震があると思います。もしもこれが起こるとすると、場所によりますが名古屋港あるいは大阪港、神戸港がダメージを受ける可能性があり、そのときの代替港、BCP的な代替港としては、先ほど言った地の利のある敦賀港というのは非常に有力な港になると思います。

これは、東日本大震災のときの新潟港が果たした役割を考えても、そういうことが敦賀港に期待されるということもあって、敦賀港というのは本当に日本にとっても大事な港だと考えておりますので、このタイミングでぜひ敦賀港を使っていただきたいと思っているということです。

【記者】 もう1点、ご説明の中にもありました防災行政無線の話なんですけれども、老朽化とありますが、素人目に見ると老朽化しているかどうか分かりづらいところもあって、現在、例えば今後この機能を果たす上でこういうところが課題なので、こういう機能を持たせて新しくなったとか、そういったところを教えていただけたらと思います。

【市長】 年数はたっているんですね。外見では分からないかもしれませんが。防災訓練のときなどに何年たっているんですよという話は聞いているんですが、13年たっていると言います。

これぐらいたつと結構寿命というか、いろんな性能面でも課題が出てきます。13年で老朽化となるようなものなんです。ずっと屋外に置くからということもあるかもしれませんが。今回更新いたします。

これについては、いざというときに動いてもらわなければいけないものですので、このタイミングで更新をしていくということです。

【記者】 これはまだ未定かもしれませんが、場所が増えるとかいう感じではなく、既存

のところを置き換えていくという感じですか。

【市長】 はい。今まであったところというのは、例えば西浦地区とか、それから東浦地区にあるんですけども、そこに設置されているものの更新費用ということで考えています。

【秘書広報課主幹】 それでは、フリーの質問対応に移りたいと思います。

【市長】（画面を見ながら説明）その前に、さっきの図を一回映してもらってもいいですか。

これなんですよ。これをずっといろんな場面で話をしていまして、各事業が自分の事業はどこに入ってくるんだろうというものを考えてもらいながら、いろんな仕事を考えてつくってもらっているというところ。これは「定住・移住」のジャンルで、でも「地域経済」とか言っているのは、ここに当てはまる感じでみんなには考えてもらっているということです。

【秘書広報課主幹】 フリーのご質問ということで、初めに幹事社からお願いいたします。

【記者】 新幹線の開業に向けて、冒頭の挨拶にもあったんですけども、改めて今週の金曜で1か月ということで、現在の受け止めと、もちろん開業後も続いていくと思うんですけども、この1か月どうしていきたいか、あと併せて、この前の連休に、昆布切符で埼玉と長野のほうへ行かれたと思うんですけども、配ってみて、手応えじゃないですけども反響とかありましたら教えてください。

【市長】 まず北陸新幹線ですけども、本当にいよいよ31日ということで、あと1か月になりました。ずっと申し上げてきたように、新幹線に関しては、敦賀市にとってということ。やっぱり市民の人に新幹線が来てよかったねと思ってもらわないといけないと思っています。ですから長期的に言えば産業面であったりとか、単なる利便性だけでなく産業面、企業誘致や観光、そういうところで新幹線が来たからよくなったと言えるようにしたいと思っています。

それに向けてということ。というのと、雰囲気づくりはやはり大事で、その雰囲気づくりが3月16、17日、それからそれ以降のいろいろなイベントだと思うんですけども、開業イベントということ。というのと16、17日に、今のところ正式発表は2月20日にイベントの予定告知の最終版というのを。出させてもらおうと思うんですが、今のところ。聞いているのは、既に17団体で20以上のイベントが企画されています。特徴的なのが、市民の方が自分たちで企画してイベントをやろうと、盛り上げていこうとやってくれている

というのがすごくありがたいということです。

そこで、できたら統一感を出したいというところで「街波祭」という名前をつけて、全体のイベントというのをみんなに分かってほしいという形で宣伝していきたいということで、名前もつけてやります。この1か月はそれに向けてしっかりと準備をしていけたらと思いますし、あと開業後もしばらくは新幹線開業後のイベントとして、音楽フェスとか、そういうこともやっていこうということでやっています。それは債務負担行為で12月の予算で入れました。ということで、準備は進んでいるものもありますから、そういうイベントでの雰囲気づくり。それから、ある意味地道な活動としての産業面でのメリット。それがゆくゆくは市民生活に還元されるような、そういうような取組みをしていきたいと思っています。

昆布切符は、私も長野県で昆布切符をゲットしたというのをわざわざゲットした人からLINEが来たりしたんですけれども、実際に現地に行った観光部長からどんな感じだったかというのを話してもらおうと思います。私が言うより全然臨場感があると思うので。

【観光部長】 まず私ども、2月9日、10日に長野灯明まつりというところに出展をしまして、敦賀のべっぴん会の皆さん3名の方と一緒に出向宣伝を行いました。それから2月12日には、さいたまマラソンに敦賀のアスリート5名の方と出展しまして、またそちらのほうでも昆布切符を配らせていただいた状況です。

長野につきましては、信濃毎日新聞が2月8日の新聞に、昆布切符を敦賀が物産で配りますというようなことを出していただき、事前告知がありましたので、2月9日のオープニング前に大体50名から100名の方が昆布切符の配布を求めて並ばれるというような状況でございました。そのような状況の中で、べっぴん会の皆さんを中心に敦賀のPRをさせていただきました。

長野でも、敦賀といいますか福井への延伸ということに大変興味を持たれておりまして、長野は海がないので、海産物などに大変興味を持たれました。その中での昆布の配布という形でございましたので、いい効果があったのではないかと考えています。

また、さいたまマラソンにつきましては、走られた敦賀のランナーから、「あ、敦賀だ」と。「敦賀」と書いた黄色いTシャツを着て走りましたので、「あ、敦賀だ、新幹線開業おめでとう」というような言葉を投げかけられる中で走ることができたと聞いておりますし、また出展ブースのほうでも昆布切符につきましては盛況であったと聞いております。

【市長】 私も報告を聞いてびっくりしたんですけれども、昆布切符が思いのほか人気だ

ったようで。私も敦賀で昆布切符が手に入らないかとか言われたりするので、まさかとか言ったら企画した職員に失礼なんですけど、本当に人気になってよかったと思っています。

【記者】 あと開業まで1か月に向けてということで今お話しいただいたんですけども、改めて市外とか県外の方に向けて、敦賀をどのように発信していきたいか、どう1か月過ぎしていきたいか。先ほどの準備の話だと、市民に向けてというのはもちろんあると思うんですけども、新幹線に乗ってこられる県外とか、県内でも市外の方などに向けて、どういう準備を進めていきたいかというのをお願いします。

【市長】 今、長野県の話が出ましたけれども、これまで時間的に敦賀から遠かった人には、ぜひ敦賀を知ってほしいなと思っています。長野方面からも取材とかあるんです。これを機にみたいな形で、この前も長野のテレビ局ですね。昨日、テレビ局の方にも取材していただいたんですけど、そのときにも申し上げたんですけども、こちらからも行きますから、そちらからも来てくださいという形。

敦賀に来ていただいたら、食べ物は本当においしいし、見るべきところは敦賀、それから敦賀の周りにもいろいろあります。それを我々としては歓迎しますからぜひ来てくださいということを申し上げました。

今まで敦賀はちょっと遠いなと思っていた人に、ぜひこの機会に来ていただけるとうれしいです。

【秘書広報課主幹】 では次に、各社の方からお願いいたします。

【記者】 新幹線関連の話なんですけれども、昨日、お隣石川県加賀市で、ライドシェアを導入するというようなお話を発表されました。北陸新幹線延伸の自治体でそういう動きもある中で、市長ご自身、ライドシェアというものに対してどういうお考えをお持ちか。タクシーなど不足しているというお話、いろんなところであると思うんですけども、そこも踏まえて、どうお考えか教えてください。

【市長】 加賀は、たしかライドシェアというより、自家用有償でなかったかなと思います。

一般的に言われているライドシェアというのは、思っているのが、今一つ課題になっているのは、タクシー業界でも地方、都会もそうなんですけれども特に地方のほうは運転手さんの確保が難しいという話があります。ライドシェアになってそれが解決するかというと、結局ドライバーが足りないということについてはライドシェアになっても変わりはないので、本当に地方が抱えている問題の解決にはならないんだろうなと思っています。

自家用有償ということになると、むしろ観光客というよりは生活の足のほうとして考えるというのは、もう既に福井県内でも取組みがありますけれども、そっちのほうかなと思っ
ていまして、それでいうと、今ちょうど地域公共交通計画を敦賀市では策定中です。そ
こではどちらかというところでは、二次交通であったり、あるいは生活の足を確保するということについて、
策定中の地域公共交通計画の中でしっかりと考えていけたらと思っています。

【記者】 多分出たと思うんですけども、新年度予算については、どのようなキーワー
ドでつくられたかということを改めて教えてください。

【市長】 キャッチフレーズ的なやつでしょうか。

キャッチフレーズは全然考えずにつくっていたんですけど、多分聞かれるだろうと思っ
て用意しました。

一応この質問を想定しながら考えたのが「好循環モデルで敦賀発展」予算です。

先ほど画面でも見せたんですけども、今、敦賀の行政で何をやっていくかということ
を考えるのに、このモデル図を使いながら考えているということがあって、このモデルを
ぐるぐると回していくことによって敦賀を発展させていくということが基本的なところ
です。このことを頭に入れながらいろんな事業を考えてもらっているという意味で、こう
いう名前をつけさせてもらいました。

【記者】 そうしますと、好循環モデルの目下の課題としての新幹線の開業効果最大化、
この2本柱と思えばよろしいでしょうか。

【市長】 そう思っていていただいて大丈夫です。

【記者】 関西電力の核燃料のロードマップの件で1点お伺いしたいんですけども、先
日、乾式貯蔵を県内3原発、美浜も含めて置くということで発表があって、コメントもい
ただいたんですけども、その中で六ヶ所の再処理工場が27回目の延期がありました。
市としてこれをどう受け止めたのか。また懸念点などがあれば、改めてですが教えてくだ
さい。

【市長】 あのとときの六ヶ所の発表としては、6月とも言っていたのかな。それが6月で
はなくなると。それから遅れる見通しだというような話だったかと思うんです。

もともとと言っていたのは、令和6年度、だから2024年の上期のできるだけ早い時期
というふうにして竣工については言われていたと思うんです。そういう意味でいうと、ま
だ令和6年度の上期が動きますというアナウンスは特になくはないと思っていますので、できる

だけ早い竣工をしていただきたい。

これはずっと申し上げていることなんですけれども、先ほどおっしゃられたように何回も延期している中で、国もしっかり指導してもらいながら、できるだけ早い竣工をしていただくということは本当に大事なことだと思っています。竣工をあと数か月であることを望んでいますけれども、しっかりと進めていっていただきたいと思っています。

【秘書広報課主幹】 ほかにございませんか。

それでは、本日、一般事業発表はございませんので、以上をもちまして市長記者会見を終了させていただきます。

午後2時25分終了